

「里山の自然と人とのかかわり ～まんのう公園におけるインター

プリテーション活動から見えてきたもの～」を開催しました



平成23年1月16日、国営讃岐まんのう公園インタープリターボランティアの井上 博夫さんを講師に迎え、「里山の自然と人とのかかわり ～まんのう公園におけるインタープリテーション活動から見えてきたもの～」を開催しました。

井上 博夫さんは、まんのう公園インタープリター・ボランティアだけでなく、環境省環境カウンセラー、省エネルギー庁省エネコンシェルジュとしても活躍されています。また、当センターでは、まなびCAN・子ども教室「キッズエコクラブ」(7月～12月の月1回ずつ)の講師として、ゲームを通して子ども達に地球温暖化や環境問題を教えてくださっています。

今回の講座では、まず、国営讃岐まんのう公園の概要や里山の自然環境についてお話してくださいました。「里山とは、“人のはたらきかけ＝農業”によってつくられた日本固有の文化です。つまり、人のはたらきかけによって維持されてきた自然なのです。」と、おっしゃっていました。

また、「エコロジーとは・・・」「ビオトープとは・・・」などの基礎的な知識についても教えてくださいました。

今、自然界には4つの危機があるそうです。みなさんはおわかりでしょうか？ 井上先生によると、①人間の活動や開発が、種の減少・絶滅、生態系の崩壊を引き起こしている ②自然に対する人間のはたらきかけが減っていくことによる影響 ③外来種や化学物質による影響 ④地球温暖化による危機（平均気温が2℃程度上昇すると、20～30%の動植物が絶滅の危機にさらされる） だそうです。

この他、「身近な生活環境の見直しをしましょう！」「里山は宝の山です。これからの暮らしには是非生かしてください！」とおっしゃっていました。

